

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990500118		
法人名	社会福祉法人もろ栄福祉会		
事業所名	グループホーム鶴の郷		
所在地	栃木県鹿沼市茂呂字極瀬243-8		
自己評価作成日	平成26年11月1日	評価結果市町村受理日	平成27年2月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成26年12月 5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者様の自主性・自発性を最大限に尊重し、自立を支援していくことで生きがいを感じて頂き、『もうひとつの我が家』と思って頂けるようなグループホームに努めている ・ご愛用の家具等をお持ち頂き、慣れ親しんだ環境作り(和室・洋室を希望等により選択して頂く等)を行っている ・日当たりの良い中庭のウッドデッキにて外気浴や運動・散歩等が気軽にできるようになっていて、また日当たりの良いリビングスペースを中心に各居室を配置している ・瓦作りの建物で木目等を生かし、また昔使用していたもの(骨董品)を配置した空間で昔を思い出して頂ける環境整備をしている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は市内南東部に位置しており、瓦屋根の落ち着いた外観をはじめ、玄関やリビングに置かれた懐かしい昔のストーブ等の調度品や和紙の照明、居室の窓に用いられた障子等、全体的に落ち着いた和の備えとなっている。利用者に昔のことを思い出してもらいたいという願いが込められており、日中はリビングで過ごす利用者も多い。2ユニットが廊下でつながっていることで職員同士連携しやすく、チームワークにより、気持ちに余裕を持って利用者向き合うことを大切にしている。また、利用者・家族・地域の絆を大切にした理念を基に各部署で毎年目標を設定し、さらに会議や各種委員会で話し合った月間目標も定め、実践と振り返りを通して職員全体の理解と共有に努めている。看護師や栄養士を配置しており栄養や健康面での安心感につながっていると共に、1か月に1度母体法人での看取り委員会に参加して対応などを学んでおり、いずれは看取りも視野に入れた終末期の支援をしたいと考えている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時での説明は勿論の事、常に職員掲示板や会議等で伝えていくことで全職員が理念を理解し、それに従った目標やケアを行えるよう、毎月の目標や委員会等で目標等を設定し、実践している。	法人理念を基に各部署で毎年目標を設定している。グループホームでも、リーダーを中心にユニットごとにそれぞれ目標を設定している。さらに会議や看取り・感染等の各種委員会で話し合った月間目標も定め、実践と振り返りを通して職員全体の理解と共有に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2か月に1度、運営推進委員会を開催し、民生委員の方々に出席して頂いている。ボランティア等を積極的に受け入れ、また夏祭り等の行事の参加等で交流の機会を持っている。	法人で自治会に加入している。近隣の方に夏祭りに来てもらったり、地域の桜祭りへの参加、ボランティアの受け入れ等を通して地域との交流を深めるよう努めている。近所の方から野菜・果物をもらうこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	居宅主催のリフレッシュ事業へ参加し、認知症についての講座実施している。又、毎月発行している『鶴の郷便り』において、地域やご家族へ認知症への理解をして頂ける様に努めている。また、行事等で施設を訪れた際にも施設での様子が伝えられるような掲示での工夫をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様や施設での取り組み状況報告等を行い、民生委員の方々や家族様代表者よりご意見等を頂き、ケアの参考にさせて頂いている。	市職員、民生委員、利用者家族・施設職員が参加している。施設や利用者の状況報告や意見交換、独居高齢者等の地域の情報を得るなどして実際のケアに活かしている。警察や消防関係者にも参加してもらえよう働きかけているが、現在のところ難しい状況である。	町内会、消防、警察、ボランティアなど事業所や利用者を取りまく多方面の方々の理解や支援を得て幅広い意見交換ができるよう、会議の開催日を工夫するなどして今後も参加に向けた働きかけを継続していくことが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	適宜、市町村担当者と連絡を取り合い、サービス向上に努めている。又、運営推進委員会出席をして頂き、運営状況や取り組み内容等に関して報告し、相談やアドバイスを頂いている。	2か月に1度の運営推進会議で市担当者から最新情報を得たり意見交換するなどして情報の共有を図ると共に、分からないことや相談したいことがあれば電話などで随時アドバイスをもらうなど良好な協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束ゼロ委員会による拘束に対する取り組み、勉強会による知識を全職員に伝わるよう周知し実践している。また、「言葉による行動の制限」については、毎年取り組み課題として行っている。	法人全体の拘束ゼロ委員会に代表者が出席し、グループホーム会議で全職員に周知、再確認している。特に言葉による拘束に注意しており、命令口調や押さえつけにならないよう、行動の理由を考えその人に合った声かけをするよう努めている。また気持ちに余裕を持って利用者向き合えるよう、チームワークを大切にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月行われる法人主催の身体拘束ゼロ委員会に出席し、勉強会に参加している。その後、グループホーム会議等で勉強会を実施している。又、高齢者虐待に関してのチェックリストを全職員が実施し、ケアを見直すことで虐待が起きないように努めている。		

グループホーム鶴の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等に参加し、成年後見人制度について学び、実際に成年後見制度を活用できる様に支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、分かりやすく説明する様に心掛けている。又、安心して過ごすためにも不明な点に関しては、いつでも問い合わせして頂ける様にお話し、納得して入所して頂ける様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時に気付いた点を話して頂ける様な機会を設けている。面会時には、職員より利用中の様子等をお伝えし、コミュニケーションを図ることで要望等を聴きケアにつながるようにしている。又、運営推進委員会に家族様代表者が出席して頂き、ご意見を頂いている。	面会時に本人の状態やホームでの様子をきちんと伝えるなど家族との信頼関係を大切にし、家族が安心できるよう、また意見や要望を言いやすい心がけている。また、運営推進会議への参加や食事の嗜好調査アンケート等意見を表す機会を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や面談等にて意見等を受ける機会を設けている。又、アンケート等や意見箱により、職員の思いや考えが把握できるように努めている。提案書にて書面での要望等も職員より提案できる体制をつくっている。	会議や年2回の人事考課で職員の意見を聞く機会を設けている。また、普段から職員の様子を良くみて、毎日のケアの中で疑問や意見があれば些細なことでも話を聞くように努めている。行事や食事などで職員の意見を取り入れられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を実施し、面談等を行う事で個々の目標設定や現状把握を行っている。又、相談等をいつでも受けれる様にし、職員の勤務に関する不安解消や向上心をもってもらえる様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外の研修会には、積極的に業務等に考慮し、参加できるように努めている。又、施設内研修として、ユニットミーティングやグループホーム会議にてテーマを決めて、取り組んでいる。定期的に参加し、ケアの向上に活かしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種委員会での同法人他施設職員との交流を、勉強会の実施を行っている。また、職員旅行や忘年会にて、普段かかわりを持たない職員との交流により学べる機会を持っている。		

グループホーム鶴の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者への思い、発言、動作等については、より注意深く観察し、コミュニケーションを行い、迅速に対応できるように心がけている。また、ご家族からの情報を得られるように、こまめに連絡を取り合っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前での在宅サービスや入院中での様子等を調査し、入所後に大差ないサービス提供が図れる様に努めている。又、面会時等に職員側から積極的に交流を図る様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の調査を踏まえて、最適な選択となるように慎重に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の個々の性格や状態を見極め、今までの生活の延長として行える事が継続できるように、家事等を中心に行って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様を理解されている方であり、普段から職員は家族様とのコミュニケーションを多くもち、会話の中からも情報等を確認し、援助内容に活かせる様に努めている。また、毎月発行の鶴の郷便りや、面会、電話等で様子をお伝えすることで、ご利用者の理解して頂けるように、共に支えていけるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの築き上げた事や生活が継続され、少しでも馴染みの場所等に行ける様、外泊が出来るよう、柔軟に対応している。	近隣の方や親戚、友人などが面会に来た時には部屋に通し、周りを気にせず話ができるよう配慮している。また、自宅に戻ったり、家族と外出や食事をしたり、馴染みの理・美容室に行く等これまでの生活や関係を大切にした支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活という面において、不安や淋しさを出来るだけ感じさせないよう職員が適宜間に入り円滑に関係を結んでいる。		

グループホーム鶴の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も安心して、暮らせる様に、積極的に家族様等と話すことで、不安なく生活できるように支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人からの訴えや生活歴、ご家族の声を大切に考え、ミーティングや担当者会議でも職員間で適宜話し合う機会を持ちご本人が何を望んでいるのかを探るりつつケアをしている。	日々の生活で利用者との会話の中から思いをくみとるよう心がけており、入浴や居室など1対1の場面で希望や思いを表すことも多い。訴えが多くない場合でも家族から「編み物が好き」等の情報を得たり、職員からアプローチして思いを把握するよう努めている。各職員からの情報により、会議を待たずに迅速に対応することもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人からの訴えや生活歴、ご家族の声を大切に、今までの生活が継続できるよう個別に対応(環境等、時間の流れ等)している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェックに始まり、家事を中心として出来る事への声掛けを行い、退屈と感じる時間が減るよう努め、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な担当者会議やモニタリング、アセスメントの実施により把握している。ご本人とのコミュニケーションからや、家族様には現状等の確認を行いながら、要望等を確認し安心して生活して頂ける様に援助内容の検討をしている。また、ユニットミーティングでは、入居者様の現状確認等をしている。	定期的な介護計画の見直しは半年に1度だが、毎月、評価シートの活用や面会時・電話などで家族に状態の確認や要望を聞き、かかりつけ医受診時の情報などにに基づきプランを見直して、現状に合ったケアを提供できるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間シートに準じた記録を行い、時系列で状況が把握できるようにしている。また、毎月評価シートを記入し、プランの実施状況の把握に努め計画見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人にとって、何がベストかと言う視点で、状況に応じてグループホームだけにとられない対応を心掛けている。		

グループホーム鶴の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日頃からスーパーや公園等への外出、秋祭り見学等、イベント時にも参加できるように、そして定期的な外出を行えるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望される病院での受診を原則として、日頃の状態を詳しくお伝えするようにしている。	ほとんどの利用者が入居前からのかかりつけ医を受診している。受診は本人の状態を把握してもらいたいということもあり家族に付き添いをお願いしているが、本人の状態はメモで渡したり、受診の結果はシートに記入してもらったりして情報を共有している。歯科は往診してくれることもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療面については看護師と連携を図り、安全第一を考えたケアに取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、病院でのムンテラに参加させて頂き、常に病院の担当者と連絡を取り合い、できる限り早期退院出来る様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り委員会への毎月の参加により、職員の知識を深めたり、重度化した場合の今後の対応についてもご家族と話し合いを行っている。	重度化した場合、状態によっては対応が難しいことなどを家族に説明している。まだ看取りの経験はないが、1か月に1度法人での看取り委員会に参加して対応などを学んでおり、いずれは看取りも視野に入れた終末期の支援をしていきたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを作成し、周知を行っている。また、法人や施設内で定期的に行われる救命講習やAEDの使い方等の研修にせ、具体的な対応方法が身に付けられるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防立ち合いの避難訓練・通報訓練・消火訓練(夜間想定も含む)を行い、また、毎月災害時に備えた訓練を行っている。また、いざと言う時の為に、地域の民生委員への協力もお願いしている。災害時のための非常食等の準備もしている。	年2回の消防署立ち合いの消防訓練のほか、各部署ごとに不定期での訓練も行っている。また、毎月の事故災害委員会の開催や、消防署による講義の受講により緊急時の対応について学んだり、普段の業務の中で不備や不安なことの確認をしている。グループホーム独自で3日分の水や食糧の備蓄もしている。	事業所内では災害時の訓練、緊急時の対応など全職員で繰り返し取り組んでおり、民生委員の協力もある。今後はさらに消防団など地域の身近な人々との交流を深め、いざという時の協力体制を築いていくことを期待したい。

グループホーム鶴の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇向上委員会により、声掛け、言葉遣い等の対応を適宜見直し、良い対応の仕方を学んでいる。また、トイレや入浴等、最もプライバシーな部分については羞恥心に十分配慮したケアを行っている。	接遇には事業所全体で取り組んでおり、特に言葉かけを大切にしている。利用者は「さん」付で丁寧に呼びかけ、命令口調や押さえつけにならないよう、また、トイレの誘導などは他人に聞こえないよう耳元で声かけするなど、プライバシーや羞恥心に配慮した対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活のなかで、本人が選択できる声掛けを行い、少しでも入居者様自身が決められる様な声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ミーティングや担当者会議により、また日々の職員間での相談にて、常にご利用者の状況把握を行い、それに応じた生活ケアが行えるように柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの趣味や好みを取入れ、またその日その日のご本人の声を聞き、本人らしい服装等が出来るように心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや調理等の本人ができる事は、職員声掛けと一緒に手伝って頂いている。食器洗い等も行って頂き、食事全体を通して、何らかの役割がもてる様にも努めている。定期的に嗜好調査も行っている。	朝、夕食は栄養士のたてた献立で職員が作り、昼食は業者の食材を利用。皿洗いや盛り付けなど、利用者も出来ることを一緒に行っている。外食をしたり、お寿司の出前を取ったり、行事やイベントなどでクリスマスケーキ等の行事食を取り入れるなど毎月、食を楽しむ工夫をしている。嗜好調査で味付けの好みやアレルギーなども把握するよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士配置にて、一人ひとりの嗜好や摂取量を把握し、その方に合わせた提供方法を検討している。又、嗜好調査を本人ヒヤリングにて確認し、家族様にはアンケートにて実施して頂いている。楽しみのひとつでもある食事ですので、できる限り嗜好に合わせてられる様に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施し、必要に応じて一部介助を行っている。また、義歯の不具合があった場合には、直ぐに、ご家族へ連絡し調整して頂ける様お伝えしている。		

グループホーム鶴の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、ご利用者個々のタイミングで声掛け、誘導を行い失禁を減らして、トイレでの排泄ができる様に努めている。	紙パンツやパットを使っている利用者も多いが、個別に排泄パターンを把握し、声かけや誘導により全員トイレでの排泄を支援している。トイレの誘導は周囲に聞こえないよう耳元で声かけするなど羞恥心にも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の把握や活動量確保を図る事を第一に考えて対応している。牛乳等の提供により、できる限り、下剤等にたよらずに対応できるように心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴予定としては、ご利用者の要望等を確認して、日にち等を決めているものの、その日その日のご利用者、ご家族の状況に応じて入浴できるように対応している。	通常は利用者の希望に合わせ、週3回、午後か夜間に入浴しているが、それ以外にも衛生面に配慮し、個々の状況に応じて入浴している。また入浴をしたがらない場合でも声かけを工夫して入ってもらうようにしている。ゆず湯やしょうぶ湯など季節のお風呂を楽しむこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に応じて、日中も短時間の臥床対応を行ったり、生活リズムに配慮しながら、無理なく活動と休息が行えるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の目的や副作用等を確認し、内服方法や服薬時の注意点をシート化し、服薬時の対応方法が統一できるように努めている。又、薬の使用目的や副作用について確認できるように個人ファイルに記載事項書類を添付し飲み忘れ等がないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の行える事への家事参加を促したり、それに対してのお礼や褒める声掛けをしっかりと伝えることで、喜びややりがいに繋がる工夫をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族とも連携しながら、出来るだけこまめな外出が出来るように対応している。定期的な同法人他施設への訪問や、買い物、季節を感じられる場所への外出支援を行っている。	季節のいい時期には近隣を散歩したり、中庭のウッドデッキでお茶や外気浴を楽しんでいる。職員と一緒に日用品を買いに行ったり、近くの関連施設で時折行われる喫茶店に向くこともある。また春のお花見、秋の紅葉狩り、観光やなの見学等、季節を感じながら外出が楽しめるよう支援している。	

グループホーム鶴の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全てのご利用者に、お金を取り扱う機会を持って頂こうと買い物レクリエーションや、外出等でやり取りを行ってもらえる機会を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、職員仲介にて家族様に電話ができる様に支援し、年賀状や手紙などで外部との交流が途切れない様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活しやすい空間作りに努めております。又、季節に合わせた室温管理や掃除等での環境整備にも努めている。季節を感じられる雰囲気や、天気の良い日には、中庭のウッドデッキでお茶を飲んだり、居心地の良さやそ外の空気にふれる機会を多く持てるようにしている。	共用空間は、ところどころに置かれた懐かしい昔の道具や和紙のペンダントライト等全体的に落ち着いた和の備えとなっている。またリビングや中庭のウッドデッキには季節を感じられる花などが飾られており、日中はリビングで過ごす利用者も多い。玄関には手洗い・うがいをする洗面台が置かれ、感染症や衛生面にも配慮している。浴室の脱衣所は滑りにくいソフトな樹脂製畳を使用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下ベンチや和み間等、少人数でも過ごせる空間を設け、使用して頂ける様に支援している。また、リビングの座席については、その日の状況により柔軟に対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用してきたタンスや椅子等、馴染みのある家具でお部屋を設置したり等で、ご本人の過ごしやすい方法で対応している。	居室は畳敷きの和室と洋室があり、どちらも窓に障子を入れ、柔らかい光が入っている。また、タンスや椅子、テレビ等好みの物や馴染みの物を置いたり、家族の写真を飾るなどしてそれぞれ自分らしい居室作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のトイレには、それぞれ分かり易い大きさの文字で示し、状況によっては居室内に貼紙を貼って、場所の把握等が出来るように工夫し、自立した生活ができるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990500118		
法人名	社会福祉法人もろ栄福祉会		
事業所名	グループホーム鶴の郷 2		
所在地	栃木県鹿沼市茂呂字極瀬243-8		
自己評価作成日	平成26年11月1日	評価結果市町村受理日	平成 年 月 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成26年12月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ご利用者様の自主性・自発性を最大限に尊重し、自立を支援していくことで生きがいを感じて頂き、『もうひとつの我が家』と思って頂けるようなグループホームに努めている
 ・ご愛用の家具等をお持ち頂き、慣れ親しんだ環境作り(和室・洋室を希望等により選択して頂く等)を行っている
 ・日当たりの良い中庭のウッドデッキにて外気浴や運動・散歩等が気軽にできるようになっていて、また日当たりの良いリビングスペースを中心に各居室を配置している
 ・瓦作りの建物で木目等を生かし、また昔使用していたもの(骨董品)を配置した空間で昔を思い出して頂ける環境整備をしている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

2〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員掲示板等に掲示し、適宜管理者から理念に関しての説明実施。又、理念を基にした年間計画に連動し、月間目標をミーティングにて設定を行い、振り返り等を毎月実施している。常に感謝の気持ち、実践につなげていく様に心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2か月に1度、運営推進委員会を開催し、民生委員の方々に出席して頂いている。又、地域に買い物や外食等に行っている。夏祭りでは、地域の方に参加して頂き交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	居宅主催のリフレッシュ事業へ参加し、認知症についての講座実施している。又、毎月発行している『鶴の郷便り』において、地域やご家族へ認知症への理解をして頂ける様に努めている。また、行事等で施設を訪れた際にも施設での様子が伝えられるような掲示での工夫をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様や施設での取り組み状況報告等を行い、民生委員の方々や家族様代表者よりご意見等を頂いている。又、ご意見を少しでも反映できる様に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	適宜、市町村担当者と連絡を取り合い、サービス向上に努めている。又、運営推進委員会出席をして頂き、運営状況や取り組み内容等に関して、理解して頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月行われる法人主催の身体拘束ゼロ委員会に出席し、拘束しない介護についての取り組みを継続実施している。声掛けに関しては、ケアの基本と考え、ミーティングや全体会議にて周知に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月行われる法人主催の身体拘束ゼロ委員会に毎月出席し、勉強会に参加し、かつグループホーム会議等で勉強会を実施している。又、高齢者虐待に関してのチェックリストを各職員実施し、早期発見が図れる様にしてあります。又、鶴の郷年間内部研修プログラムにも取り入れている。		

グループホーム鶴の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等に参加し、成年後見人制度について学び、実際に成年後見制度を活用できる様に支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、分かりやすく説明する様に心掛けている。又、安心して過ごすためにも不明な点に関しては、いつでも問い合わせして頂ける様にお話し、納得して入所して頂ける様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時に気付いた点を話して頂ける様な機会を設けている。面会時には、職員より利用中の様子等をお伝えし、コミュニケーションを図ることで要望等を聴きケアにつながるようにしている。又、運営推進委員会に家族様代表者が出席して頂き、ご意見を頂いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や面談等にて意見等を受ける機会を設けている。又、アンケート等や意見箱により、職員の思いや考えが把握できるように努めている。提案書にて書面での要望等も職員より提案できる体制をつくっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を実施し、面談等を行う事で個々の目標設定や現状把握を行っている。又、相談等をいつでも受けれる様にし、職員の勤務に関しての不安解消や向上心をもってもらえる様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外の研修会には、積極的に業務等に考慮し、参加できる様に努めている。又、施設内研修として、ユニットミーティングやグループホーム会議にてテーマを決めて、取り組んでいる。定期的に参加し、ケアの向上に活かしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種委員会での同法人他施設職員との交流を、勉強会の実施を行っている。また、職員旅行や忘年会にて、普段かかわりを持たない職員との交流により学べる機会を持っている。		

グループホーム鶴の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	要望や思い等を確認しながら、ケアに取り組んでいる。日々のケアから、ご本人の訴えを傾聴しながら、見出した課題等に関しては、家族様に適宜確認等を行いながら、より本人の思いに沿える様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前での在宅サービスや入院中での様子等を調査し、入所後に大差ないサービス提供が図れる様に努めている。又、面会時等に職員側から積極的に交流を図る様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の調査を踏まえて、その都度、意向等を確認しながら見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であり、尊厳をもち、その方らしい生活を過ごしていけるようにコミュニケーションを多くとる様に心掛け、思いを見出している。常に生活の場として、どう接していく事が良い事か?を念頭に入れて対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	法人理念でもある「誠の絆」を念頭に、普段から職員は、家族様とのコミュニケーションを多くもち、会話の中からもご本人の情報等を確認し、援助内容に活かせる様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの築き上げた事や生活が継続され、少しでも馴染みの場所等に行ける様に本人や家族様とのコミュニケーションを大切にしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様との関係性を理解し、馴染みの関係としての交流が図れる様に職員仲介等にて関係性が継続できる様に努めている。		

グループホーム鶴の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も安心して、暮らせる様に、積極的に家族様等と話す機会を設け、相談等に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様や家族様に確認しながら、意向や生活リズム等の把握に努めている。その方がどう生活していきたいのかを良く知り、少しでもその方に沿った生活やケアができる様に努めている。毎日の生活の中でケアに必要な事は、適宜相談し、また家族とも協力して頂き一人ひとりにあったケアを行えるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前調査にて生活歴等を確認し、入所後は本人や家族様に適宜、コミュニケーションを通して、その方の今までの生活把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートを通して、本人の出来る事や職員サポート内容統一を行っている。身体状況等の変化時には、適した援助内容に改訂し、常に本人に合ったサービス提供が図れる様に努めている。また、日々のケアの中で、気付いた点等は話し合い、現状の把握をいち早く行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な担当者会議やモニタリング、アセスメントの実施により把握している。ご本人とのコミュニケーションからや、家族様には現状等の確認を行いながら、要望等を確認し安心して生活して頂ける様に援助内容の検討をしている。また、ユニットミーティングでは、入居者様の現状確認等をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間シートに準じた記録を行い、ユニットミーティングを通して、ケアの変更や職員間での気付きがケアに活かせる様に努めている。毎月、居室担当者にて評価を記入し、より分かりやすくしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時のニーズに対応できる様に、日々柔軟に検討し、取り組んでいる。各業種間でも連携を図り、今必要なケアとは?を見出せる様に努めている。		

グループホーム鶴の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ひとりひとりにあった地域資源の把握を行い、活用する事により、生活が充実できる様に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様との連携を図り、身体状況変化時等には小まめに連絡を取り合い、かかりつけ医での受診ができる様に努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化時等には、看護師に相談し、対応方法等の検討をしている。家族様には、状況報告を行い、必要に応じての病院受診の依頼等をし、安心して暮らして頂ける様に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、病院でのムンテラ等に参加させて頂き、常に病院の担当者と連絡を取り合い、できる限り早期退院出来る様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に考慮し、早い段階で終末期のあり方について話し合う機会を設けられる様にしている。また、同法人内での看取り委員会に毎月参加し、終末期ケアについての話し合い、かつ勉強会にて取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを作成し、周知を行っている。また、法人や施設内で定期的に行われる救命講習やAEDの使い方等の研修にせ、具体的な対応方法が身に付けられるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防立ち合いの避難訓練・通報訓練・消火訓練(夜間想定も含む)を行い、また、毎月災害時に備えた訓練を行っている。また、いざと言う時の為に、地域の民生委員への協力もお願いしている。災害時のための非常食等の準備もしている。		

グループホーム鶴の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	様々な場面でもプライバシーに対する配慮やご本人様に対する声掛け等にも配慮する様に心掛けています。又、施設内研修にて定期的に接遇についての目標設定や振り返りを行う事で常に職員間での意識付けが図れる様に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活のなかで、本人が選択できる声掛けを行い、少しでも入居者様自身が決められる様な声掛けを行える様に努めている。また、声掛け等についての勉強会等をも行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ミーティングや担当者会議により、また日々の職員間での相談にて、常にご利用者の状況把握を行い、それに応じた生活ケアが行えるように柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの趣味や好みを取入れ、またその日その日のご本人の声を聞き、本人らしい服装等が出来るように心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや調理等の本人ができる事は、職員声掛けと一緒に手伝って頂いている。食器洗い等も行って頂き、食事全体を通して、何らかの役割がもてる様にも努めております。定期的に嗜好調査も行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士配置にて、一人ひとりの嗜好や摂取量を把握し、その方に合わせた提供方法を検討している。又、嗜好調査を本人ヒヤリングにて確認し、家族様にはアンケートにて実施して頂いている。楽しみのひとつでもある食事ですので、できる限り嗜好に合わせてられる様に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必要に応じての声掛けや一部介助にて実施している。義歯が合わない場合等には、家族様に歯科受診の検討をして頂いている。		

グループホーム鶴の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、ご利用者個々のタイミングで声掛け、誘導を行い失禁を減らして、トイレでの排泄ができる様に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や活動量確保を図る事を第一に考えて対応している。できる限り、下剤等にたよらずに対応できるように心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間帯や入浴方法等の好みを把握し、出来る限り意向に沿った対応が出来る様に努め支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方のペースに応じた対応に心掛け、室温や寝具類調整によって、安眠できる様に対応している。又、日中帯の活動量確保が図れる様にも努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の目的や副作用等を確認し、内服方法や服薬時の注意点をシート化し、服薬時の対応方法が統一できるように努めている。又、薬の使用目的や副作用について確認できるように個人ファイルに記載事項書類を添付している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活パターンを把握できる様に些細な事でも、24時間シートに転記する様に心掛けております。又、できる事を継続していける事への楽しみや外出での気分転換を図れる様に努めております。そして、自分で出来る役割の大切さを伝えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じて頂いたり、職員との交流の中で話題になった場所等に可能な範囲で外出・外食が出来る様に努めている。また、本人の希望にそっては、家族様に協力しながら支援している。		

グループホーム鶴の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全てのご利用者に、お金を取り扱う機会を持って頂こうと買い物レクリエーションや、外出等でやり取りを行ってもらえる機会を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、職員仲介にて家族様に電話ができる様に支援し、年賀状や手紙などで外部との交流が途切れない様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活しやすい空間作りに努めております。又、季節に合わせた室温管理や掃除等での環境整備にも努めている。季節を感じられる雰囲気や、天気がいい日には、中庭のウッドデッキでお茶を飲んだり、居心地の良さやそ外の空気にふれる機会を多く持てるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下ベンチや和み間等、少人数でも過ごせる空間を設け、使用して頂ける様に支援している。また、リビングの座席については、その日の状況により柔軟に対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様や家族様と相談しながら、自宅で使用していた馴染みの家具や使い慣れた物等を持参して頂き、以前の生活環境に近い状態で暮らして頂ける様に心掛けています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の出来る事を把握し、できる事を少しでも続けられる様な環境整備や空間作りに心掛けております。又、適宜ヒヤリハット報告書にて改善箇所等を見出して、できるかぎり自立した生活が送れるように工夫している。		